# MRI 検査をお受けになる患者さんへ

1. **MRI 検査はどんな検査？**

MRI は、磁場を利用し体の中の様子を画像化します。体のタテ・ヨコの輪切りの鮮明な断層写真が得られ、診断に役立つ検査です。検査は 30 分～60 分程度です。MRI は、患者様の状態によっては検査ができない場合があります。問診票をよく読んで、かかりつけの医師にご相談ください。

2. **検査当日（予約時間をお守りください）**
   - 腹部の撮影を受けられる方は、検査 4 時間前は何も食べたり飲んだりしないでください。少量の水ならかまいませんので、心臓や血圧の薬は服用してください。
   - 予約時間の 10 分前に受付に予約通知書・保険証・情報提供書を提出してください。
   - 更衣室で検査着に着替えていただきます。金属や磁気を帯びたもの等は外してロッカーに入れ、施錠してください（MRI 検査問診票をご参照ください）。
   - 化粧品の中には金属を含んでいるものがあるため、化粧を落としていただくことがあります。
   - 検査時はブザーをお渡ししますので、検査中に気分が悪くなった場合は、速やかにお知らせください。
   - 検査中「トントン」という大きな音がします。耳栓を希望される方は事前にお申し出ください。
3. **検査終了後は、普通どおりの生活を送ってください**
   - 検査結果は、かかりつけの医師にお聞きください。

**造影検査の場合**

造影検査は造影剤を静脈から投与し、血管や臓器をより詳しく調べます。検査は 60 分程度です。

- 検査前に内科外来で検査の説明を行い、同意書を作成します。自署できない場合は、ご家族等の付き添いをお願いします。
- 検査中は、看護師と放射線技師が常に観察しています。
- 異常が現れた場合は検査を中止し、点滴等必要な薬剤を投与し、最善の対処を致します。

造影剤の副作用と注意点

1) 副作用は、軽いものを含めて 100 人に 1 人程度の患者様に何らかの症状が現れることがあります。ショックなどの重要な副作用は、1 万人に 1 人程度現れることがあります。非常にまれですが（100 万人に 1 人程度）、死に至った報告もあります。
2) アレルギー体質の方は、副作用が現れる可能性が約 3 倍高く、中でも喘息の方は重大な副作用が現れる可能性が高いと言われているため、造影剤検査はできません。また、造影剤は尿中に排泄されるため、腎機能の悪い方も検査はできません。かかりつけの医師にご相談ください。
3) 副作用の症状は、吐き気・嘔吐・かゆみ・じんましん・くしゃみ等、重大なものとしては、血圧低下・ショック症状・喘息発作・呼吸困難などがあります。
4) 副作用は、造影剤を注射して 30 分以内に表れるものが多いのですが、1 時間以上～数日経過して、かゆみ・じんましん・全身倦怠感などが表れることがあります。
5) 腎機能が正常であれば、造影剤は通常 2 時間以内に約 60%、24 時間後には 90%以上が尿として排泄され、体に残ることはありません。
6) 排泄を促進させるために、水やお茶などの水分を多めにお取りください。
7) 帰宅後に副作用と思われる症状が表れた場合は、病院にご連絡ください。

社会医療法人協和会加納総合病院　地域連携室　06-6351-9810